

現代的課題や地域課題をふまえた特別活動の実際

堀之内 修

広島都市学園大学 子ども教育学部

要 旨

教育課程における教科外活動の一領域である特別活動は、[自主的・実践的態度と能力を育てる]と学習指導要領でも謳われ、訓育の主要側面を担っているが、その目的を達成するためには、その編成過程から活動の実施に至るまで、優れて、現代的な課題や地域課題（子ども・学級・学校の実態、家庭や社会の状況等を含む）をふまえて展開されなければならない。そうすることで、[自主的・実践的態度と能力]を、子どもたちに「生きて働くもの」として育てていくことができる。本稿では、具体的にどのような取り組み（実践）が「現代的課題や地域課題をふまえた特別活動」であるかを紹介する。

キーワード：特別活動，現代的課題，地域課題，地域との連携，平和教育，児童の実態

1. はじめに—現代的課題や地域課題をふまえた教育課程の編成と展開とは

教育課程が現代的課題や地域課題をふまえるとは、子どもたちのいる、そして、学校の置かれている現代的状況や地域に内在している教育に関わる様々な問題をどう捉えていくか、子供が成長していく、すなわち、発達という観点から、どういう課題が現代的状況や地域にあるかをどう捉え、分析し、学校の教育課程にどう適切に反映させていくかということである。¹⁾

2. 現代的課題や地域課題をふまえた特別活動—学習指導要領から

小学校学習指導要領第1章総則の第1『教育課程編成の一般方針』1において、「各学校においては、教育基本法及び学校教育法その他の法令並びにこの章以下に示すところに従い、児童の人間としての調和のとれた育成を目指し、地域や学校の実態及び児童の心身の発達の段階や特性を十分考慮して、適切な教育課程を編成するものとし、これらに掲げる目標を達成するよう教育を行うものとする。」²⁾とある。すなわち、「地域や学校の実態を考慮する」ということは、各学校において教育課程を編成する場合には、地域や学校の実態を的確に把握し、児童の人間として調和のとれた発達を図るという観点から、それを学校のエデュケーション目標の設定、指導内容の組織あるいは授業時数の配当などに十分反映させる必要があるということ³⁾である。

1の「教育課程編成の原則」をふまえ、特別活動の指導計画の作成については、第6章の第3の1の(1)で、次のように示している。⁴⁾

(1) 特別活動の全体計画や各活動・学校行事の年間指導計画の作成に当たっては、学校の創意工夫を生かすとともに、学級や学校の実態や児童の発達の段階などを考慮し、児童による自主的、実践的な活動が助長されるようにすること。また、各教科、道徳、外国語活動及び総合的な学習の時間などの指導との関連を図るとともに、家庭や地域の人々との連携、社会教育施設等の活用を工夫すること。

本稿では、『現代的課題や地域課題をふまえた特別活動の実際』について、以下紹介する。

3. 地域課題をふまえた特別活動の実例—基町小学校の事例から

この校区は住民6000人中、65歳以上が40%、小中学校生が4%という超少子高齢社会である。しかし、それ以上に、際立っているのは、小学校146人中58人、すなわち在校生の40%が帰国・外国人児童である(2009年)。この実態をふまえ、学校教育目標は「自尊感情の育成」に焦点を当てて設定し、『多文化共生』の「学び合い」の授業づくりを最大の実践課題としている。⁵⁾ まさしく、実態を逆手にとって、多文化共生そして国際交流をも、きめ細かで丁寧な「学び合い」の授業を中軸に、学級、学年、学校全ての教育活動の中に取り組んでいる。高齢社会と学校との関わり、「学び合い」の授業づくりの紹介は別の機会にするとして、ここでは、児童会活動を中心とした多文化共生、国際交流の特別活動の取り組み⁶⁾の一端を新聞報道から紹介する。

広島市中区の基町小の児童が十三日、運動場で「友好の杜」(仮称)づくりを始めた。国連訓練調査研究所(ユニタール)広島事務所のナスリーン・アジミ所長が発案した活動。被爆エノキの三世など八本を植樹し、平和や国際理解の学習に活用する。

同小は平和記念公園の北東約八百メートルにあり、原爆資料館から

外国人が四割近くを占める全校児童百四十六人と、アジミ所長、住民たちが参加した。近くの河岸で二千年前に枯死した被爆エノキの三世や、中国で親しまれるヤマモモ、地中海のゲッケイジュなど七種類八本を植えた。被爆の記憶の継承や世界の友好がテーマだ。

同小は児童に募って正式名を決め、八月六日に完成式と平和学習会を開く。エノキに土をかけた六年床山大興君(11)は「いろんな国の木々が仲良く育つてほしい」と願っていた。(水川恭輔)



アジミ所長(左から3人目)と木に土をかぶせる児童

四月、知人を通じて同小を知ったアジミ所長が「平和の願いが託された軸線上に木を植えて、子どもが親しめる場所をつくって」と提議。学校側が、延長線上に当たる運動場の南西部分約百五十平方メートルの植樹を決めた。この日の植樹式には

原爆資料館「ドームの「軸線」上」

基町小に「友好の杜」

植樹開始

資料1 多文化共生、国際交流の事例(1)⁷⁾



資料2 多文化共生、国際交流の事例 (2)⁸⁾

4. 現代的課題（今日的・普遍的課題）をふまえた特別活動の実際

—平和教育を通しての特別活動

(1) 広島県の平和教育⁹⁾

平和教育は、日本国憲法の理念に基づく教育基本法及び学校教育法に示されている教育の根本理念を基調とし、学習指導要領に則って実施する。従って、児童生徒の発達段階に配慮した上で、自他を尊重し合い、我が国の社会や文化に対する理解と愛情を深めるとともに、国際理解や国際協調の視点に立ち、恒久平和を願う国際社会に貢献する人づくりを進めることを基本とする。

(2) 広島市の平和教育—特別活動に関わって¹⁰⁾

4) 特別活動における平和教育

①特別活動の目標と平和教育

特別活動の目標は、小学校では「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図るとともに、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う」ことである。

(中略)

このような特別活動は、「望ましい集団活動を通して、連帯意識を深め、他の成員と協力して平和的な国際社会を実現していく自主的、実践的な態度を養う」という平和教育の具体目標と密接な関連をもち、この教育活動に寄せられる期待は大きい。したがって、広島市において、特別活動を実践するにあたっては、ヒロシマの使命・責務をふまえながら、適切な機会をとらえ、平和に関する具体的な主題や活動を設定することが必要である。望ましい集団活動を展開させながら、現代社会をたくましく生き抜き、さらに輝かしい未来を創造するこ

とのできる人間の育成を目指すこの活動は、世界恒久平和実現のための基本的資質を培ううえで、極めて大きな役割を担っていると言える。

(3) 美鈴が丘小学校の平和コンサート（著者が在籍していた学校での事例）

（平成20年7月2日テレビニュースより）¹¹⁾

アナウンサー： 広島市内の小学校で、被爆ピアノを使って平和の曲が演奏されました。演奏に使われたピアノは、広島市で学徒動員として作業中に被爆し、19歳で亡くなった河本明子さんが弾いていたものです。爆心地からおよそ3キロ離れた広島市西区の家にあったピアノには、爆風で窓ガラスの破片が突き刺さりました。

今日は、広島市佐伯区的美鈴が丘小学校の体育館に全児童や保護者、地域の人などおよそ800人が集まりました。

（ピアノ演奏と合唱）

東京在住のジャズピアニストで、家で使われなくなったピアノをアジアやアフリカの国々に送る活動をしている河野康弘さんが演奏しました。

（ピアノ演奏と合唱）

コンサートの最後には、河本さんを偲んで、児童の保護者の作詞で、河野さんが作曲した「時を止めないで」という曲を合唱しました。

（ピアノ演奏と合唱）

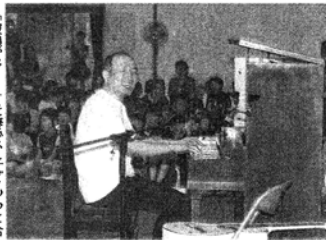
子どもA：「ジャズとかが楽しかったです。」

子どもB：「命が受け継がれていると感じました。」

（ピアノ演奏と合唱）

被爆ピアノ奏でる「平和」

「被爆ピアノ」を奏で、子どもと合唱する河野さん（広島市佐伯区）



広島市内で被爆死した河本明子さん愛用の「被爆ピアノ」を奏でて、平和への思いを新たにす平和コンサートが、同市佐伯区の市立美鈴が丘小で2日、行われた。ピアノの存在に胸を打たれた同小児童の保護者で、版画家の君島龍輝さん(51)「顔写真Ⅱが作詞した歌「時を止めないで」を児童らが合唱した。原爆投下時、広島女学院専門学校（現広島女学院大）の3年生だった河本さんは、現在の広島合同庁舎（中区）付近で動労奉仕中に被爆し、翌日急性放射線障害で亡くなった。19歳だった。同市三滝本町（現西区）の自宅には爆風で飛び散ったガラスの破片が突き刺さったピアノが残され、2002年に河本さんの弟からボランティア団体に託された。昨年8月、戸坂中（東区）でこのピアノを使った演奏を聴いた君島さんは、深い感銘を受け、時を作ることを決意。河本さんが亡くなる前にトマトをほしかったと聞き、時の一編に「陽の落した庭に光る 赤いトマトを君にあげるから」と無念の思いをつづるなどした。曲をつけたのはジャズピアニスト、河野康弘さん(54)で、この日のコンサートでは伴奏を担当し、児童らと合唱した。

合唱に加わった同小6年三浦翔加さん(11)は「一瞬で命を奪われた人のため、『戦争を二度と、起こしてはいけない』という思いを歌に込めました」と話していた。

美鈴が丘小、保護者作詞

持ち主少女思い合唱

資料3 平和教育の事例——新聞報道の紹介から(1)のA¹²⁾

被爆ピアノを演奏する河野さん
〓 広島市佐伯区

被爆ピアノで平和を考える演奏会

広島で被爆死した女学生が生前に愛用し、原爆の爆風で傷ついた「被爆ピアノ」を使った演奏会が2日、広島市佐伯区の市立美鈴が丘小で開かれた。ジャズピアノの河野康弘さん(54)が女学生の死を悼んで作曲した曲を演奏し、児童らに平和の大切さを訴えた。

被爆ピアノは、原爆が広島に投下された昭和20年8月6日、学徒動員中に爆心地近くで被爆し、翌7日に19歳で亡くなった女学生の遺品。原爆投下時、ピアノは爆心地から約3メートル離れた女学生の自宅にあったが、爆風で飛び散ったガラスなどが突き刺さった。修復された現在でも、ピアノの側面には刺さったガラスの破片が生々しく残っている。

この日開かれた同小の平和学習発表会に合わせ、被爆ピアノで演奏してもらった。河野さんは「人種や国境を越える音楽を通して、子供たちを裏切らない平和な社会を作りたい」と話していた。

演奏会の前には、児童らが被爆者の体験を再現した演劇や、市民合唱団との合唱を披露した。その後、河野さんが被爆ピアノでジャズ調にアレンジした童謡などを演奏。最後に、河野さんが昨年9月に同小の保護者と亡くなった女学生への

資料4 平和教育の事例——新聞報道の紹介から(1)のイ¹³⁾

平和願う歌が響いた

主編 篠田 典子 71歳
広島市佐伯区的美鈴が丘小学校で平和コンサートが開かれ、市民合唱団の一員として参加した。
第一部では小学一年から六年までの児童が寸劇「まつ黒なお弁当」を披露した。被爆死したわが子のそばに、朝作ったお弁当だけが残っているのを見つけた母親の悲しみをお母さん役、子ども役が見事に演技した。第二部が小学五年、六年生百人と私たち市民合唱団五十人による合唱。「夾竹桃の子守歌」と「世界の命、広島の子守歌」と「世界の命、広島の子守歌」の二曲を歌いあげた。最後にピアノの河野康弘さんによる被爆ピアノの演奏と話で締めくくった。

私たちの歌った「世界の命、広島の子守歌」の作詞は原田東樹氏で、作曲は藤掛真幸氏。歌詞に「炎の中に生まれでた新しき命、広島」とある。戦争ほど憎いものはない。命ほど尊いものはない。平和ほど尊いものはない。(広島市佐伯区)

資料5 平和コンサートに参加した地域住民の声¹⁴⁾

5. 子ども、学級の実態をふまえた特別活動の実践

—学級活動の授業の事例から¹⁵⁾

子ども、学級の実態に対応した特別活動(学級活動)の取り組みであり、その実態(課題)を克服する取り組みの事例を紹介する。

学級担任（5学年）は3つの子ども、学級の課題を提示している。

- ①受け身的に行動する子どもたちが多い。
- ②こだわりの強い子ども（発達障害を抱えている子どもたちを含め）が数名いる。
- ③コミュニケーションの力が弱い。

①について—子どもたちは常に誰かに指示されたり、教え込まれたりしている。その結果、家庭でも学校でも忙しさの中で、「失敗してもいい」と言われながらもいざ失敗すると責められる状況の中で、いつの間にか、受け身的に行動するようになってきて、与えられたものを楽しむという傾向になってきている。だから、主体的に関わる手立てとして、自分たちの（学級）生活を意識的にとらえるようにしたいという願いで、『達成祝いしよう』という学級活動の中での取り組みを子どもたちに提起している。

②について—こだわりの強い子どもたちは、一途に思い込むことが多く、軌道修正が難しいため、周囲の友だちとトラブルになることが多い。この子どもたちを、学級活動を始めすべての教育活動の中でどのように参加させ、彼らの（発達）課題を根気よく克服させていくか（実は、彼らを見守る学級集団の課題でもあるのだが）をこの取り組みの中でも担任は意識している。

③について—しっかりと考え、積極的に発言する子どももいるが、相手に伝えようという気持ちで話さず、言っぱなしの子どもが多い。また、自分の言いたいことを言うことが先に立ち、人の話を聞く、自分の話を分かってもらおうというコミュニケーションの力は弱い。そこで、担任は、話し合いの結果が直接、自分たちに降りかかってくるものであると実感できる「チーム分け」という具体的課題を仕掛けている。そして、きちんと意思表示をしないといけないこと、安易な多数決をしないことを子どもたちに学ばせようとしている。すなわち、「合意と納得」をである。この学級活動の授業では、その点を意図しているのである。

本題材では、以上のような子ども、学級の実態をふまえ、子どもたちが主体的に関わる手だてとして、日々自分たちの生活を意識的にとらえるようにしたいと考え、次のような取り組みを行っている。朝、班ごとに生活目標を立てて、夕方反省をする。その日の目標が達成できたらビー玉を一個ビンに入れる。ビンにビー玉がいっぱいになったら「達成祝い」をする。そして、達成祝いは何をしようか、どのようにしようかとみんなで考え、計画を立て、実行するのである。この一連の過程で、自分たちが学級の主体者であり、学級を作り上げているのだという実感と喜びを共有させていくのである。

この一連の指導の流れを図示すると次のようになる。

達成祝いしよう → 何をしようか（全体で討議） → ソフトバレーボール大会をしよう
（全体で確認） → 実行委員会を作る（全体で確認） → （実行委員会が原案を作る） → 実行委員会の原案をみんなで検討しよう（全体で討議） → チーム分けをしよう（実行委員会の作業の後、全体で確認） → ソフトバレーボール大会

本稿では、**「実行委員会の原案をみんなで検討しよう（全体で討議）」**という授業の中の「チーム分けについて話し合う」という場面について要約してみる。本時の目標は「みんなで楽しく過ごせる会にするためにはどうすればよいかを考えることができる。」である。

実行委員会原案の「好きな人同士で6チーム、男子3人、女子2～3人」というチーム分けについて話し合う。（引用者注：日常の『生活・学習班』とは違うチームづくりをするという意）

A：1人になったらどうするんですか。

実行委員：1人にならないように計算して決めます。

B：好きな人でない同士が残ってしまったらいやだから（原案に）反対。（B君は発達障害）

担任：どんなチームがいいんですか。

B：余った人たちだけになるのはいやです。（と発言するが対案は浮かばない。）

C：B君に付け加え。出席番号順がいいです。

D：修正案。ねらいは、チームワークを深めようだから、強いチームはまとまるけど、B君が言うように、残り者チームはまとまらないと思う。くじとかで決めたほうがよい。（と別な修正案を提示）

E：D君に反対。理由は、くじ引きだったら、B君とよくけんかするF君が一緒になったら、けんかして、おもしろくないから。

B：E君と同じで、くじだと、けんかしやすい人と一緒になったらどうするんですか。

D：そうなったときは、実行委員が調整したらいい。

F：時間をかけて、好きな人同士もいれて、みんなで決めればいい。

G：F君に付け足し、もしきらいな人と一緒になってもバレーボールしていたら、友だちになったり、好きになればいいと思う。

B：G君に反対。それでも、きらいな人と一緒になったらけんかをする。

（個人がそれぞれつぶやき出す）

H：先生に決めてもらったらいい。混乱が起きにくそうだから。

E：反対です。（自分たちで決めるのだから）

（原案、出席番号順、くじ、先生、の4案が出そろった。）

司会：どれにするか個人で考えてください。

司会：多数決っていいですか。

司会：（原案賛成多数で）原案通りです。（B君も納得）

.....
授業のまとめとしての担任の言葉

- ・ どうしたら楽しい会になるか真剣に考えていたね。（全体への評価）
- ・ 本当は多数決をしなくて決めたかったのだが。（担任の願い）（原案にしっかり考えを出し合って、合意と納得をするということ）
- ・ B君の（今までの）経験から、残り者になったらいやだなーと、みんなにそんな想いをさせたくなかったーいい意見です。（B君への評価）

授業後の教員同士の協議では、B君について、今まで自分が周りの人から大切にされてきたこと、周りの人を大切にしたことやすること、自分に対する周りの人の関わり方について敏感な子に育っている。そして、他の人にも自分が受けてきたいやな思いをさせたくないという子にも育ってきているのだという確認を行った。

併せて、B君がきわどい発言（『余った人』等）をしても、周りの子どもたちがそれを温かく受け止め、発言の意図を理解しようという集団、関わり合おうという集団になりつつあるということも確認した。

なお、実際のチームづくりは、黒板に書かれた6つの枠組みに、全員が見守る中、好きな者同士が誘い合って名前を書き（B君には複数から誘い合いがあった）、人数調整を実行委員が行った。結果は誰も排除されることはなかった。

この授業を行う前提は、当然、学級という時空間が「安心の土台」に支えられていることである。そして、自尊感情を育む因子の土台である「(B君を始めとする)一人ひとりが包み込まれている感覚」を持てる(またはそれを目指そうとしている)学級ということである。「包み込まれ感覚」とは「安心してわからないことが言える、思うままにつぶやける」そういう感覚のことである。

[illegible]資料6 子どもたちによる実行委員会の原案¹⁶⁾

- 19 —

6. 終わりに

特別活動とは、様々な現実の中にある子どもたちに学習指導要領で謳われている「自主的・実践的態度と能力」を現代的課題や地域課題をふまえた「生きて働くもの」として育てていく重要な教育活動（訓育の主要な側面）を担っているのである。

（文中及び資料の全ての下線、波線は著者による。）

注

- 1) 拙稿「教育活動全体を通しての、現代的課題や地域課題をふまえた道德教育の実践」、広島都市学園大学紀要『健康科学と人間形成』第2巻、29頁、2013年3月1日。
- 2) 文部科学省『小学校学習指導要領』13頁、平成20年3月。
- 3) 同上『小学校学習指導要領解説総則編』17頁、平成20年8月。
- 4) 同上『小学校学習指導要領』114～115頁、平成20年3月。
- 5) 佛圓弘修「教職員の感性を磨く授業研究の実践～内なるハラスメント性をのりこえて～」、広島県教育会・日本教育会広島県支部機関紙『広島県教育』第76号、16～19頁、平成21年8月31日。
- 6) 広島市立基町小学校研究紀要（平成21年度）「学び合い、高め合う子どもをはぐくむ授業づくり—国語科における『読む力』を育てるために—（9年次）」Ⅳ章2『平和・国際理解教育』63～65頁、3『児童会活動』66～70頁、2010年（平成22年）3月。
- 7) 中国新聞、2009年（平成21年）5月13日記事。
- 8) 同上、2008年（平成20年）5月19日記事。
- 9) 広島県教育委員会『平成26年度 広島県教育資料』207頁。
- 10) 広島市教育委員会『平和教育の指導資料—平和教育の指導計画試案—（小・中学校編）』11頁、平成18年3月。
- 11) NHK広島放送局、平成20年7月2日放映。
- 12) 読売新聞、2008年（平成20年）7月3日記事。
- 13) 産経新聞、2008年（平成20年）7月3日記事。
- 14) 中国新聞、2008年（平成20年）7月9日『広場』。
- 15) 広島市立A小学校『学級活動（生活の充実と向上に関する）授業』より、平成19年12月6日。（引用者注：個人情報保護のため、学校名及び授業記録の児童名はアルファベットにしている。）
- 16) 第5学年2組学級活動：ソフトバレーボール実行委員による議題『ソフトバレーボール大会をしよう』、平成19年12月6日。（引用者注：個人情報保護のため、児童名はアルファベットにしている。）
- 17) 広島市立A小学校〇〇教諭『学級活動（生活の充実と向上に関する）指導案』平成19年12月6日。（引用者注：個人情報保護のため、学校名はアルファベットにし、担任名は記載していない。）